

日々学び、日々感謝

本校では3月13日に卒業式、24日に修了式を行い、また、27日には転退任式を行い、御退職、御転出の先生方を見送り、一年を終えようとしています。おかげさまで、児童生徒、職員の頑張りと共に、保護者並びに関係者の皆様の温かい御支援、御協力により、無事に今年度を終えることができます。改めて御礼申し上げます。

この一年間、児童生徒との関わりの中で、子供たちからたくさん励ましてもらいました。出張に出ようとした際に校内で児童に「校長先生はこれから出張に行ってくるね」と話したところ、「がんばってね。おうえんしているからね」と送り出してくれました。また、出張で不在にすることが多く、久しぶりに子供たちと会って目線を合わせるためにしゃがんで話したところ、ある児童は私の頭をなでてくれました。「ああ、笑顔でいても、もしかしたら疲れていると感じさせてしまったのかもしれない」と反省すると同時に、「子供たちの力はすごいなあ」と思いました。相手のことを考えて行動したり発言したりすることができることは簡単なことではありません。きっと、日常的にあたたかい言葉のシャワーを浴びているのだらうと思い、学校生活で児童生徒にかける言葉について、その影響力を肝に銘じておく必要があると改めて感じました。

始業式や修了式などで、児童生徒にいつも目標設定と振り返りの話をしています。「できた！」も「できなかった」も成果であり、目標達成できなくても、挑戦したことやプロセスとそれまでの努力を称賛し、振り返って目標達成のためにどうすればよいか考え、取り組むことの大切さを伝えています。「頑張ったね」も素敵ですが、「頑張っているね」とプロセスを称賛し伴走できる教育実践を継続していきたいと思っています。児童生徒の頑張っている姿には、そこに伴走している職員がいます。職員全員と面談した際に、共通していたのは児童生徒への深い愛情でした。それぞれの児童生徒の成長を願い、指導支援をどのように実践するかを熱く語る姿勢に共に勤務できていることに感謝するばかりです。



校外学習や修学旅行、現場実習などを通して、地域の方々にもたくさんのエールをいただきました。公共交通機関を利用した際、駅のホームで児童がまとまって座れるようにと席を譲ってくださった方から、「子供たちはお昼ご飯を食べましたか。」と聞かれました。「みんなでファミレスで食べてきたところです。」と答えたところ、「よかったですね。」とほほ笑んでくださいました。その方は海外から日本にいられて仕事をされているそうで、自分の国で障がいのある親戚が暮らしていることを話してくださいました。心を寄せることや特別支援は何も国内に限ったことではないというあたりまえのことにハッとした瞬間でした。

日々、学ばせていただくことに感謝しながらの幸せな一年間でした。ありがとうございました。来年度も荒尾支援学校をよろしくお願いいたします。